



40周年記念住民集会 民謡を踊り飲み語り

# 白川郷の合掌造り

## 第14号

平成24年3月31日

発行 (財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団  
岐阜県大野郡白川村荻町2495番地の3



平成23年12月23日、荻町多目的集会施設を会場にみだしの集会を開催しました。これは、白川郷荻町集落の自然環境を守る住民憲章制定・守る会結成40周年及び重要伝統的建造物群保存地区選定35周年を記念して開催されたもので、関係者を含め約160人の住民が集う意義ある会となりました。大勢のご参加とご協力に感謝申しあげるとともに、取り組みの一部をここに紹介いたします。

**■姉妹世界遺産集落締結**  
記念住民集會に先立ち、同日午前、白川村荻町と韓国安東市河回里（ハフエマウル）

## 40周年記念 住民集會を終えて

白川郷荻町集落の自然環境を守る会

事務局長 **和田 正人**

の姉妹世界遺産集落締結式を挙行しました。河回里は荻町同様に居住空間が世界遺産となり、葺き家屋の家並みや伝統ある民俗芸能を継承している等多くの類似点もついています。河回里とは過去6回の相互交流を経て今回の締結に至った訳ですが、同じアジアの世界遺産として、この姉妹締結は必ずや両集落に様々な恩恵をもたらしてくれることと確信しています。その仲介役を努めてくださいました元村教育長の柿崎京一氏に感謝申し上げます。無理することなく息の長い交流を続けていけるよう取り組みたいと考えています。

**■住民集會・懇親會**  
記念式典には始まり、河回里・白川郷の映像紹介、(財)日本交通公社寺崎竜雄氏の記念講演「観光とつぎあい方」世界自然遺産の島で考えた10のヒント、民謡クラブ有志によるアトラクション「白川音頭」の披露と続き、後半には座談会「みんなで語ろう、荻町の昔・今・これから」と題して、参加者の皆さんに語っていただきました。昔を知る方々からの話に加え、若手の葺き師として活躍する野谷信二さんが「結の屋根葺きの楽しさや大切さ」について語ってくださいました。また座談会の最後には、同じく若手の今藤建二さんが、「感謝の気持ちと住民憲章を心に刻み、世界遺産となった荻町を守り暮らし次代につないでいこう」と住民集會宣言を高らかに読み上げました。その後の懇親會では、荻町民謡保存会の方々による白川民謡を楽しみながら、心に残る宴の一時を過ごしました。語らいの中で文化庁文化財部参事官の清永洋平氏が、「住民が主体となって行う記念集會。紅白幕で祝い、民謡を踊り酒を交し語り集う姿。こういうことができる地域が少なくなっているんです。白川はそれが連続と続いている。これが住民の絆であり結の精神なのですね。」と賞賛くださいました。心に響く一言でした。

(前頁より)

■ 記念誌の発行

記念住民集会にあわせ、記念誌を発行しました。A4版96ページの冊子で、守る会が編集し村教育委員会より発行。守る会40周年と伝建選定35周年を合わせた記念誌で、参加者に当日配付するとともに、後日荻町区各戸及び関係諸機関に配付しました。記念誌は、「40周年を打ち上げ花火で終わらせたくない」「諸先輩方が培い住民が努力してきた足跡を記録に留めたい」「足跡から学び感謝し次代へつなぐ一助にしたい」との思いから作成を進めてきました。多くの方々に関わっていただけるといえるよう歴代会長

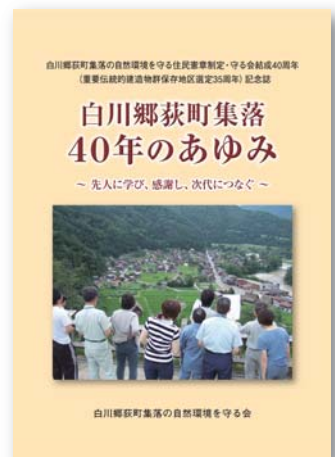


をはじめとする諸先輩方の懇談会を開催しその議事録を掲載したり、次代を担う子ども達の感想も付したりするよう努めました。昭和40年代の荻町集落の様相や住民憲章ができた経緯、保存の原則「売らない・貸さない・壊さない」が果たしてきた役割、伝建地区選定や世界遺産登録に関わるエピソード、マスタープラン作成や諸問題への思い等、諸先輩方の先見性と40年にわたる住民の取り組みがわかる記念誌になったと感じています。更に記念誌を読まれた方々から、募金の呼びかけや竹筒募金箱を作成した当時の苦労話等、新たな情報も寄せられつつあります。記念誌は40年全ての足跡が網羅されているわけではありません。守る会の歴史を正確に残していくためにも、間違



いのご指摘や新たな情報を今後も積極的に寄せいただければと願っています。40年にわたる保存の取り組みが、重伝建の選定や世界遺産登録につながります。

がりました。そして、それらが私たち住民の誇りとなり地域振興の基となっています。これは住民全ての努力と協力の賜であると同時に、文化庁・行政・合掌財団・有識者の皆様のご支援があったることと感謝の気持ちで一杯です。守る会は保存と地域振興を目的に歩んできた組織であり、そのスタンスはこれからも変わりません。しかし、時の流れとともにその保存は世界遺産レベルの景観に、地域振興は世界遺産レベルの景観に進化していることをしっかり認識しなければなりません。交通対策や農山村の景観保全等解決すべき課題は山積しています。だからこそ、これからも住民の結束と住民・行政が一体となった歩みが必要となります。伝統ある荻町集落のよさを守り、世界遺産に暮らし、そして胸を張って子や孫の代へとつなげていくためにも、住民憲章の精神を忘れることなく皆様の一層のご理解ご協力を心よりお願い申し上げます。



自治保存会育成事業

第三十四回全国町並みゼミ  
飛騨市大会に参加しました

平成二十三年度の自治保存会育成事業は九月三十日～十月二日に飛騨市で行われた、第三十四回全国町並みゼミに参加しました。

飛騨市での開催ということで「つなごう歴史の町づくりー飛騨の匠の技と心を伝えようー」をテーマとして行われました。今回の参加者は五名と少数ではありますが、知っていたつもりでの飛騨地域の再発見もあり、有意義な研修となりました。



オープニングセレモニー「宮川古太尽」



被災地からの報告

第一日目 全体会

一日目には基調講演、開催地および各地からの報告が行われ、ブロック別に会議が行われた後、歓迎交流会が盛大に行われました。

開催地からの報告では、飛騨市より町村合併を契機に人口の減少、過疎、高齢化がさらに進んでおり、今後「生活・景観」一体としてのとらえが必要であると課題が述べられ、新たな取り組みについても発表がなされました。

また東日本大震災の被災地からの報告もあり、明治、昭和と繰り返し大きな津波に見舞われながらも復興してきた三陸地方の自然との共生の歴史が、今回の震災復興にも大きな力になると感じました。

第二日目 分科会

二日目には分科会および町並部門別交流会に参加しました。分科会は、守る会事務局長の和田正人さんがパネリストとして発表をされることもあり、全員第3分科会「農村の今までとこれから」に参加しました。会場は宮川町種蔵地区で、石積み棚田と板倉が点在する「ぎふ棚田21選」にも選定された日本の原風景を残す場所でした。恥ずかしいことに白川村から近い場所にもかかわらず、初めて知りました。

種蔵地区の事例からは、観光客が来るようになり、地元住民が地域の価値に気付いてから、住民が変わった。「やる気」「住み続けることへの誇り」が生まれたとのことでした。



種蔵地区の板倉

分科会のまとめとして、農村のこれから



種蔵地区の石積み棚田

からの暮らしを守るために4つの「大切」が提言されました。

- ①つながりが大切
- ②住民が地域の価値に気付くことが大切
- ③地元企業や農業者、地域住民、都市を繋ぐコーディネーターが大切
- ④地域が自立できるような仕組みづくりが大切

部門別交流会は、参加者全員が発言できる場として企画されていました。私たちが参加した「第一次産業と集落」では内容のほとんどが、白川郷の話題でした。

報道による白川郷の現状に参加者の意見が集中し、世界遺産白川郷の重みを今更ながらに痛感しました。

# 平成23年度文化財修理報告

文化財専門設計監理技師 松本継太

## ◆牧山徳蔵家 伝建No.65

建物の規模(本屋)	桁行 16.4m
梁間	6.4m
建築面積	136㎡

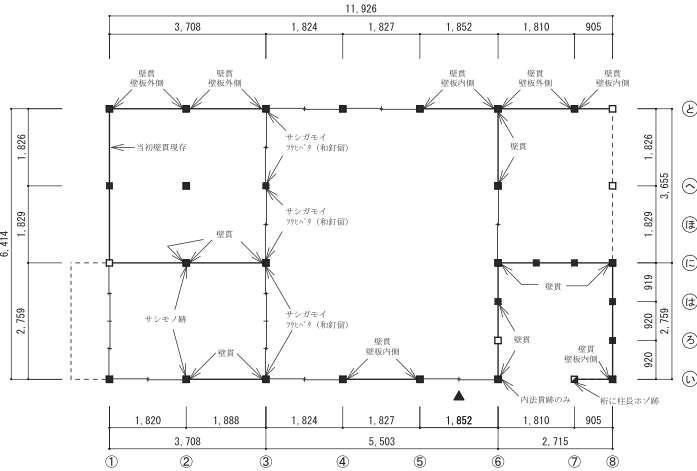
### 牧山家の概要

牧山家は本屋が桁行6.5間、梁行3.5間の合掌造り民家である。建築当初の状態に復原すると、間取り下手から正面マヤ、背面がミンジャ、真中に広間のオエ、上手正面にデイ、背面側にチヨウダと標準的な合掌造りの間取りをしている。建築年代は昭和50年の家屋評価調査の記録によると明治35建築となっているが、マヤ・デイ境の差鴨居が桶端ひぼたを別材で釘打ちした「ツケヒバタ」の形式になっており、桶端は和釘留めとなっているため建築年代は江戸後期まで溯るであろう。復原するとオエ正面側3間の真中及び、デイの下手柱間が板壁となる。通常の合掌造り民家では正面側は全て履きだしの引違い戸になることが多いので、このことは大変珍しい。

### 修理概要

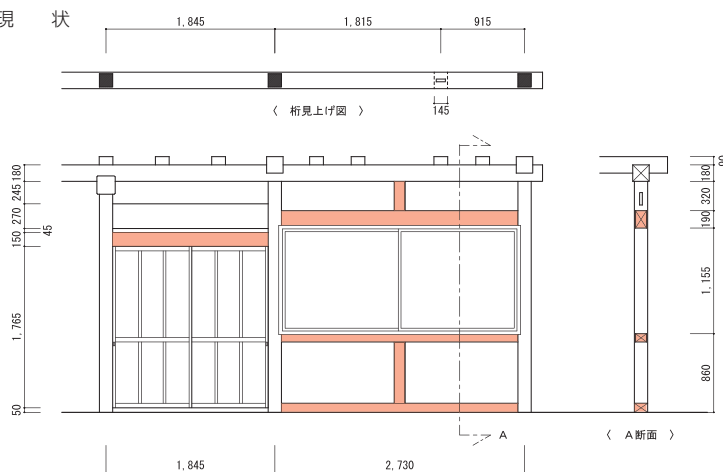
牧山家の礎石は経年により不動沈下をおこしており、この沈下を起因とする柱の傾斜が見られた。建物の建つ地盤は掘削の結果、現在の地盤面より15

図1...推定復原図(復原部分に関する痕跡を明示)



cmから45cmの深さに支持地盤があったためそれぞれの礎石下に支持地盤までのコンクリート独立基礎を打設し不動沈下対策を行った。礎石高さは現状で一番高い位置にある礎石を基準として、全ての柱の足固め貫上端・礎石天端間を計測しそれぞれの礎石高を決定した。

現状



正した礎石に再度据え直した。  
**復原部分**  
 今回の修理時の痕跡調査の結果、正面側のマヤ廻りの改造部の改造履歴が判明したので報告する。修理前、マヤ部分は部屋に改造されており、正面側には一間半間口の窓が設置されている。(図2参照)この部分を調査した結果、最下手より上手に半間の箇所を桁を見上げると柱が入っていた痕跡が見られ、ちょうどその位置には合掌材

復原検討

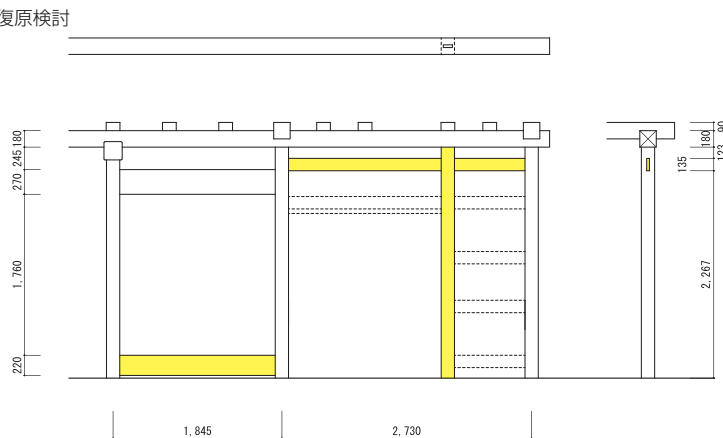


図2: 玄関、マヤ正面詳細

が載り荷重がかかる位置でもあるので、改造前はこの位置に柱があったことがわかった。また、現状窓上の差し鴨居も後補材である。最下手柱の北側面には板壁が入っていた痕跡も見られるため、当初この半間部分は板壁であったことがわかった。また、その上手の一間間については、マヤ・玄関間の正面側柱南側面に内法貫の痕跡しか見られないためここは開口部であったことがわかる。普通は、馬を出入りさせるための大戸が入る場所であるが、下手には一間の大戸を引き込むだけの間口がとられていないためどのような建具が入っていたかまでは不明であ



図3：修理後

る。以上の痕跡調査の結果を踏まえ、今回の修理では柱の復原と半間の板壁の復原を行うことができた。また、玄関については、現状の鴨居上の差し鴨居が当初材で、柱の下部に登り框の痕跡があったため当初は現状より高い位置に引違い戸が入っていたことがわかったが、この部分については便宜上現状維持としている。

◆木村阿喜子家 伝建No非合掌2

建物の規模（本屋）

桁行	15.75 m
梁間	9.17 m
建築面積	222.88 m <sup>2</sup>

木村家の概要

木村家は合掌造りの集落である萩町の中にあつて大変珍しい履歴を持った



図4：修理前

家である。大正三年に飯島集落より合掌造り民家を譲り受け現在の土地に移築、その際には茅葺屋根は降ろし、二階建のトタン屋根葺きとし、移築後正面側に一間の下屋を増築している。その後昭和7年に合掌民家に接続して近代和風様式の二階建書院座敷を南側に増築している。伝統的建造物の特定はこの近代和風様式の書院座敷も含んでいる。

修理の概要

今回の修理は大正三年に移築された合掌造り民家部分の半解体修理を主とし、近代和風部分は床組みの修理と漆喰壁の補修に留めている。合掌造り民家部分は移築後の改造が著しく正面側半分は金物店営業のため土間使いとなっている。修理方針は基本現状維持であるが正面側の床については一部復



図5：修理後

原した。また正面側の下手から二列目の柱が修理前の状態では抜かれていたが、今回の修理で新規復原した。礎石については牧山家と同様に礎石下にコンクリート独立基礎を支持地盤まで打設、背面側の部屋部分に床組みが残されていたが、地盤の湿気による腐蝕が激しく根太については取替を行った。また、二階部分は登り梁の構造になっているが一箇所登り梁が不足している箇所へ新規で入れる等の措置を行った。



図6：合掌部分内部

白川村を代表する近代和風建築

近代和風建築とは明治から昭和初期にかけて日本の伝統技術を踏襲して建築された日本建築のことで、一九八〇年頃から注目され始め、最近では京都の「清風荘」が国の重要文化財になるなど近代和風建築は近世と現代の橋渡しの存在で、これから文化財指定が活発化される時代の建物である。

木村家は富山県井波町の大工が建てている。特徴としては天井が高く、漆喰壁が基本となっている。どういった経緯でこのような様式の建物を立てられたかはわからないが、部屋は全て床棚を備えた書院座敷となっていることから、来客者を招くことを目的として建築された事は想像できる。いずれにしろ萩町では珍しい近代和風建築という意味では貴重な存在である。



図7：近代和風建築部分

せせらぎ公園小呂駐車場

平成二十三年度の入込み

平成二十三年三月に発生した東日本大震災は白川郷の観光にも大打撃を及ぼしました。

平成二十三年度せせらぎ駐車場の入込は普通車が約一万九千台減(前年比七十五%)、バスは約五千一百台減(同七十五%)となっており、震災直後の四月には普通車は前年比六十五%、バスは三十%にまで落ち込みました。その後は徐々に増加してきましたが、普通車、バス共に月別で二十二年度の実績に追いつくことは、震災のあった三月までありませんでした。ただ震災直後は姿を消したかに見えた海外からのお客様も徐々に戻ってきています。今後の入込が期待されます。

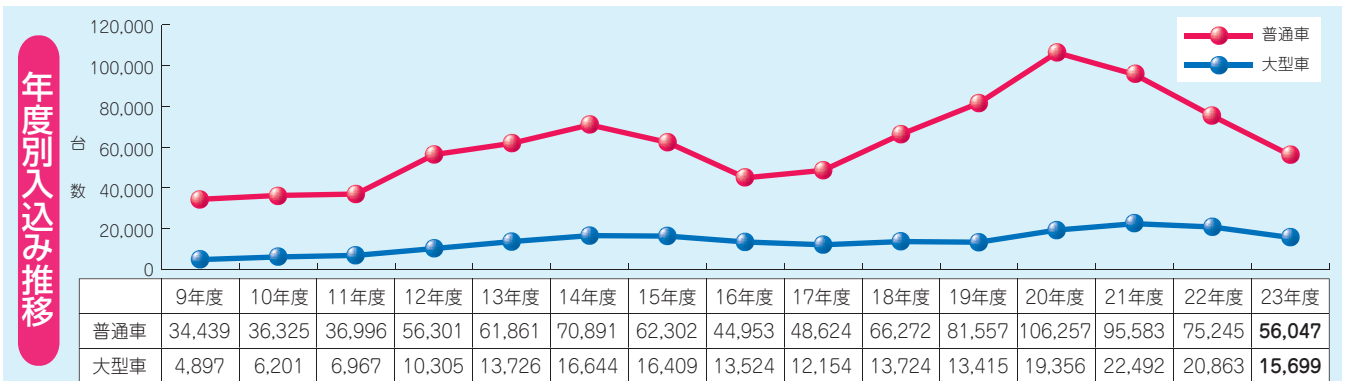
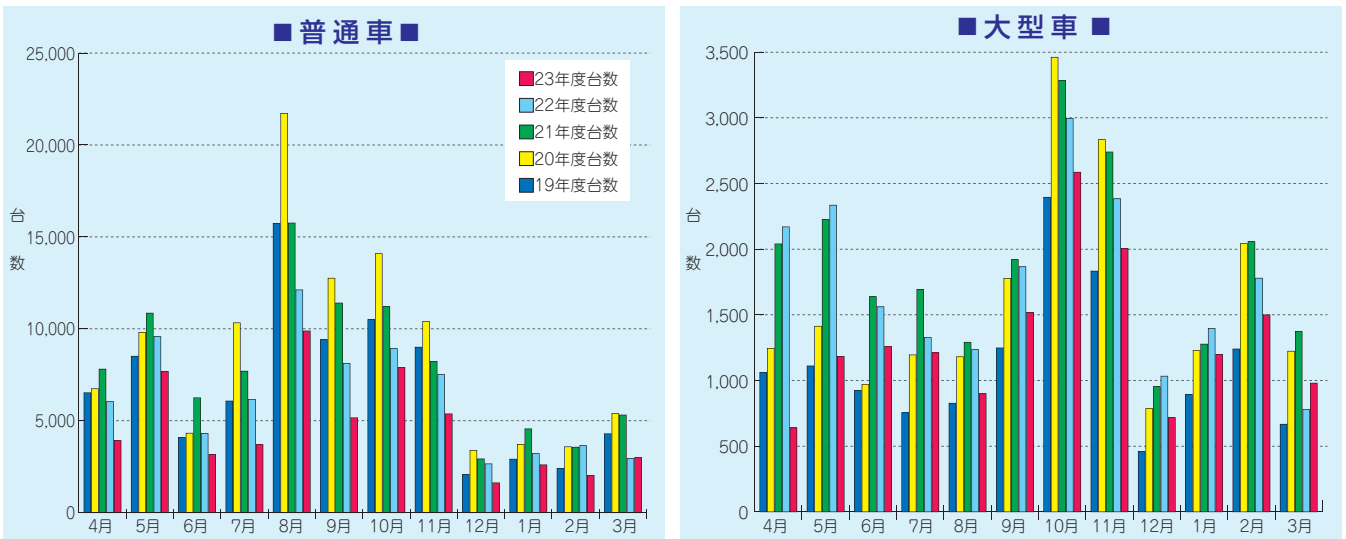
せせらぎ駐車場への普通車の入込が減少した原因は震災だけではなく民間の駐車場が周辺に増加したことも無関係ではありません。駐車場料金の一部は世界遺産協力費として、世界遺産集落保存のために使われています。このまま駐車場の収益が減少することは、集落を保存してゆくための体力を失うことですから、早

急な対策が必要です。

財団ではせせらぎ駐車場の他にも寺尾駐車場の管理運営を白川村から受託し混雑日に限って運営しています。二十三年度は混雑が予想される二十八日について準備を行い、内十三日間、実際に営業を行いました。あくまで新交通システム実施調査を基にした混雑時の渋滞緩和が目的であり、収益を望める駐車場ではありません。集落保存事業の一環として経費代を捻出している状況です。しかしシャトルバスの運行や警備員の配置など再検討を重ねて少しでも経費を抑えるべく努力したいと思いません。

世界遺産萩町集落の住民は平成二十四年度四月より集落内にある萩町駐車場を閉鎖するという英断をしました。年々増加してゆく民間の駐車場に対し、まずは萩町区が運営する駐車場をやめることで一石を投じたのです。財団もこの意志を支持するとともに、変化する交通動態に対応するため、対策を講じていきたいと思えます。

平成19~23年度 せせらぎ公園小呂駐車場月別入込み台数比較



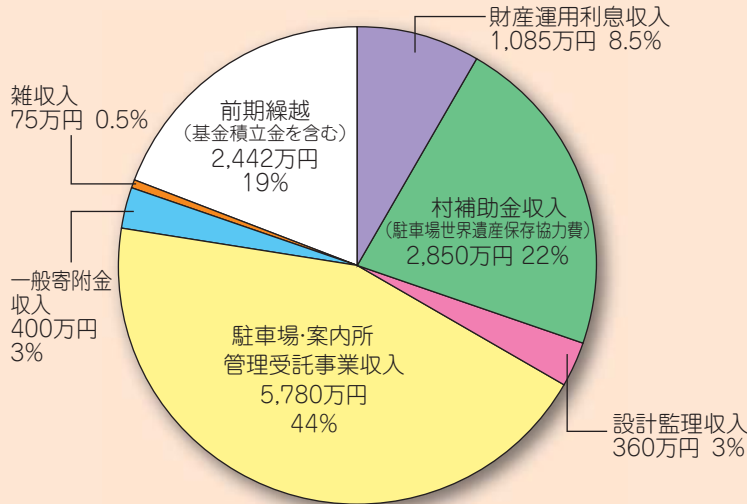
●●財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団●●

平成23年度

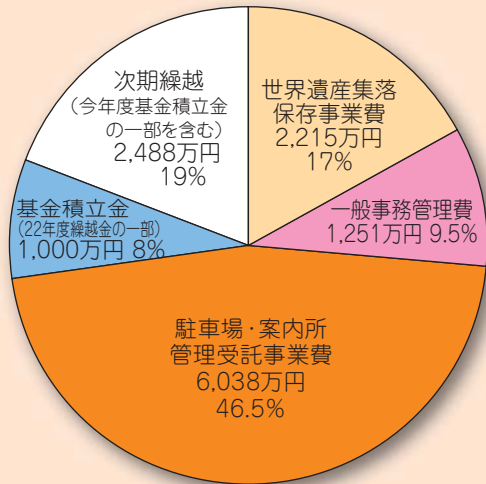
# 会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成23年度の会計状況をお伝えします。

**歳入 1億2,992万円**



**歳出 1億2,992万円**



## 平成23年度の主な事業

<b>1. 修理事業</b>		<b>8,264,000円</b>
差し茅	11棟	2,075,000円
伝統的建造物修理	軸部修理	1,106,000円
棟茅葺替	85/108棟	5,083,000円
トタン屋根葺替	0棟	0円
<b>2. 修景事業</b>		<b>3,749,260円</b>
修景協力費助成	11棟	1,926,000円
トタン屋根葺替	5棟	1,221,000円
ビニールシート指定色奨励事業	61枚	280,260円
一般建築物茅屋根補修	3棟	133,000円
オダレ助成	26枚	189,000円
<b>3. 地域活性化事業</b>		<b>1,125,870円</b>
自治保存会活動費助成		1,000,000円
自治保存会育成事業	町並みゼミ(飛騨市)	104,250円
人材育成事業		21,620円
<b>4. 調査普及事業</b>		<b>4,339,721円</b>
新交通システムの実施調査		4,339,721円
合掌造り民家耐震性能調査		0円
<b>5. 水田復旧事業</b>		<b>1,236,075円</b>
耕作放棄地の復旧	水田59.1a, 畑0.7a	643,623円
耕作放棄地の復旧支援		592,452円

合計 18,714,926円

## 財源内訳

県補助金	1,000,000円
村補助金	17,500,000円
基金運用利息	214,926円

合計 18,714,926円

財団が受託管理運営しているせせらぎ公園及び駐車場では利用客から駐車場利用料（普通車300円・大型車2000円）、世界遺産保存協力費（普通車200円・大型車1000円）の二種類を徴収しています。これらの収入は財団からすべて村に収められます。

そのうち駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、一部は駐車場・案内所管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちらも一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは財団の主目的である世界遺産集落保存事業を遂行するための大切な収入源となっております。平成23年度のせせらぎ公園小呂駐車場の総収入は、普通車、バス共に減少、駐車場利用料約4,729万円（1,598万円減）、世界遺産保存協力費約2,718万円（873万円減）となり、年間の駐車場収益に対し経費が上回る事態となりました。これまで駐車場収益のうち経費を差し引いた残金は村で積立を行っていましたがその一部を取り崩して、駐車場、案内所管理受託事業費として5,780万円、集落整備事業及び運営費補助金として2,750万円を村からの収入とさせていただきました。

財団が保有する基金は約6億4440万円、23年度は1084万円の利息となりました。財団の貴重な自主財源として集落保存事業を中心に活用しています。

## 財団が保持している基金の現在額(平成24年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	342,035,846円
合計	644,396,846円

# … ありがとうございます …

## 募金で協力者一覧 (敬称略)

平成23年度

福岡県	野中利郎	香川県	柴田 聡
愛知県	森 顕敏	山口県	山田一男
	大森國雄		藤井律子
	北条正典		山口県議会文教警察委員会
	トーヨーキッチン&リビング(株)	奈良県	吉川 太
神奈川県	小野 剛	岐阜県	早川美和子
	北村秀雄		(有)高山観光写真
埼玉県	細谷恵子		(株)セディナ・岐阜支店
兵庫県	西本照也		(株)三輪酒造
長野県	田中悠樹		加藤文男
和歌山県	石田真紀		白川中学校生徒会
東京都	広田正紀	三重県	紺谷圭子
岩手県	創生会	滋賀県	(株)文教スタジオ・一園泰成
千葉県	イオンリテール(株)	長崎県	柴田龍郎

### 竹筒募金

国重文 和田家／ふる郷 長瀬家／神田家／明善寺郷土館／民宿 十右エ門／民宿 きどや／民宿 ふるさと／民宿 久松／民宿 利兵衛／民宿 幸エ門／民宿 与四郎／民宿 源作／民宿 大田屋／民宿 よきち／民宿 伊三郎／民宿 のだにや／民宿 孫右エ門／民宿 志みづ／民宿 かんじゃ／トヨタ白川郷自然学校／民宿 わだや／旅館 城山館／民宿 一茶／土産 こびき屋／土産 おけさ／土産 山楽堂／土産 しゃくなげ／土産 山里／土産 佐藤民芸品店／土産 今藤商店／土産 白楽／土産 山峡の家／食事 基太の庄／文化喫茶郷愁／食事 合掌庵／合掌造り民家園／土産 古太神／食事 合掌 森崎／焰仁 美術館／元気な野菜館／団子 いさなみ／食事 喫茶狩人／土産 恵びす屋／土産 おいしんぼ／食事 喫茶今昔／白川郷の湯／食事 いろり／民宿 やまもと／土産 ぜん助／食事 手打ちそば処 乃むら／喫茶 さとう／鳩谷郵便局／道の駅白川郷／土産 一飛／食事 白水園／食事 飛騨路／食事 ます園文助／土産 めめんこ／城山 天守閣／食事 与ぜ／お食事処 忠兵衛／食事 しらおぎ／喫茶 鄙／あらい食堂／食事 味処ゆきんこ／団子 ちとせ／白川郷観光協会／総合案内であいの館

## 世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

### 振替による場合

基金に対する  
ご寄付お送り先  
及び資料請求先

- ・郵便振替口座 00810-6-51954
- ・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

### 現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3  
(財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団  
TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113  
☆インターネットでも受け付けています。  
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

### 編集後記

財団会報「白川郷の合掌造り」も今回で第十四号を迎えます。財団が発足して職員が集められ、これまでの時間、長いようで、あっといふ間だったような気がします。この春、一緒に仕事をしてきた文化財専門設計監理技師が財団を離れ、白川村職員として新たな道を歩くことになりました。これまでの二年間も実質、村教育委員会に席をおいて仕事をしていたので、急にいなくなると言った実感はないのですが、少しさみしい気もします。より仕事は厳しくなることと思いますが、白川村の文化発展のため、まい進してくれることを望みます。

財団自体も現在岐路に立っています。国の公益法人制度改革の流れの中で、新たな法人組織を確立すべく、平成二十五年四月の移行を目指し事務手続きに追われています。

荻町集落住民が駐車場閉鎖の英断をしたことは、集落を守っていくことの強い決意の表れでもあり、元駐車場の有効活用は、今後いつその景観向上と観光の拠点としての活用が広がる事でしょう。

減り続ける駐車場利用台数を見ても不安は隠せませんが、財団に課せられた使命を全うすべく、一歩づつでも歩みを進めていきたいと思えます。